

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	品川区教育委員会
研究課題	A. 学校評価の充実・強化に向けた実践研究
研究のねらい	学校・家庭・地域において子どもを取り巻く様々な課題を共有する協議会を地域に立ち上げることにより、共通理解に基づく目標を設定するとともに、それぞれの役割分担をしながら、地域の力を学校経営に生かす。さらに、中学校区を単位とした地域全体での目標設定（P）、実践（D）、地域人材を活用した評価（C）、改善・見直し（A）を確立し、地域ニーズを反映した自律的な学校経営と地域人材の活用を推進する。 実践研究により得られた成果を他校に周知することにより、自律的・組織的な学校運営体制の構築を推進する。
研究の概要	子供を取り巻く様々な課題を共有する協議会を立ち上げることにより、共通理解に基づく目標を設定するとともに、それぞれの役割分担をしながら、地域の力を学校経営に生かす。さらに、中学校区を単位とした地域全体での目標設定（P）、実践（D）、地域人材を活用した評価（C）、改善・見直し（A）を確立し、地域ニーズを反映した自律的な学校経営と地域人材の活用を推進するために、区立浜川中学校および連携する浜川小学校・鮫浜小学校を実践研究モデル校に指定し、学校、保護者、卒業生保護者、地域、近隣幼稚園長等による協議会（「品川版学校運営協議会（仮）」）を立ち上げた。また、本区が「校区外部評価」として学校関係者評価を実施してきた中で、中学校区を単位とした小・中学校のグループとして、小中一貫教育全体を評価することが難しいことや、評価委員の固定化や客観的な評価活動が困難との課題があった。そこで、品川版学校運営協議会（仮）を立ち上げ、内部に「学校評価部」を設定し、図1のように、連携している全ての学校の「学校評価」を実施することにより、グループ全体の小中一貫教育の評価に取り組んだ。さらに、「学校評価部」の設定においては、委員の選出方法を指定（地域関係者、近隣幼稚園長、5・6年生保護者等）したり、任期制を取り入れたりすることにより、改善充実を図った。 <pre> graph TD A[浜川中学校区 品川版学校運営協議会] --> B["「評価部」"] B --> C[学校評価（外部評価）] C --> D[浜川中] C --> E[鮫浜小] C --> F[浜川小] </pre> 図1 浜川中学校区品川版学校運営協議会の学校評価組織図

	従来、各学校はボランティアの活用などの地域リソースを生かした教育活動を実施してきた。しかし、各校独自の取組に留まっており、各校の取組や人材を中学校区単位とした地域全体で共有する仕組みがなかった。そこで、連携グループ全体として、地域リソースを生かした学校運営体制を構築し、共通の取組を実施しやすくすることや人材リソースをグループとして活用することができるようにした。 今年度末に PDCA サイクルによる客観的な評価の実現を図ることで、中学校区の教育の質の向上に資する効果的な評価活動や、本地域連携事業をモデルとした全区展開を図るための基礎資料を作成し、区内全校へ配信した。
研究の成果	・ 中学校区の品川版学校運営協議会（仮）を設置したことで、今まで各校で行っていた別々の地域連携事業を 3 校共通の事業として実施することができた。さらに、人材リソースを共通で確保することができるようになった。そのことにより、小中一貫教育のグループとして、特色ある教育活動の充実を図ることができた。 ・ 学校による地域への支援活動の充実を図るための協議を、品川版学校運営協議会（仮）で行うことにより、学校を含めた地域の子供たちの共通の課題を見出し、その解決のための取組を実現することができた。 ・ 評価部に、近隣の幼稚園園長を設定することで、就学前の子供をもつ保護者の気持ちや教育観的な視点での小学校への評価活動ができるようになった。 ・ 5 年生以上の保護者を設定することで、中学校入学前の保護者の視点での中学校や、自校の取組から他校の評価をする客観的な視点での評価活動ができるようになった。 ・ 評価部が 3 校を共通で評価したため、小中一貫教育の連携校として共通の目で全体を評価することができた。 ・ 学校側は、自校のみの学校評価とならず連携校の実践を知ることで、地域全体の課題や問題点を共有することができ、次年度の教育課程に 3 校で共通する取組みができるようになった。 ・ 評価部が 3 校を担当するため、日程調整や評価負担などの課題を見出すことができた。
本件 問い合わせ先	品川区教育委員会事務局指導課 TEL:03-5742-6832 FAX:03-5742-6832 E-mail:sido@city.shinagawa.tokyo.jp